

## 平成18年度第3回公益事業振興補助事業審査・評価委員会 議事要旨

1. 日 時 平成18年12月5日(火) 午後3時30分～5時30分
2. 場 所 日本自転車振興会 7A会議室
3. 出席者 〈委員〉 小松隆二委員長、雨宮孝子、栃本一三郎、宮嶋泰子、山岸秀雄  
(敬称略)  
〈本会〉 猪野理事、浅川部長、宮田課長、佐藤課長
4. 議 題 (1) 平成19年度補助要望状況について  
(2) 平成19年度補助事業採択の基本的な考え方について  
(3) 個別課題等について  
(4) その他

### 5. 議事要旨

(質疑応答の内容は以下のとおり (○は委員の発言 ●は本会側の発言))

(議題に対する質疑)

○公益補助事業の採択に関するチェックリストの「公益性」の項目中に「不特定多数の利益を目的としない」ものは補助対象としないとあるが、犯罪被害者等は「不特定少数」であるので表現の工夫ができないか。

●誰でもそういう状況になり得るという意味での「不特定多数」である(社会的マジョリティ、マイノリティという意味ではない)のでご理解頂きたい。

○今まで補助した団体の評価について問題点などはまとめているのか。

●効率性、効果性を中心に評価し、新規の団体についてはインターネットなどで情報を収集している。

○地域性という観点からみると、東京が多いように思うが。

●全国的な法人の本部が東京に集中していることから止むを得ない面がある。

○犯罪被害者のシェルターは重要な補助メニューであるが要望はどうなったのか。

- 新規の補助メニューで1年目ということもあり、要望が出てこなかった。建設したあとの管理が課題のようであり、今後に期待したい。
- 医療・公衆衛生における検診車の要望が随分多いが。
- 10年以上使ったといった理由で更新要望が多い。中央団体からは、補助金総額が減って更新出来ないと嘆かされている。
- 効果の疑わしい継続事業については原則3年くらいで補助を打ち切っても良いのではないか。
- 補助メニューによっては一定期間の経過後に見直すことも考える必要がある。
- 事業によっては本来スポンサーを見つけて行うべき事業もあり、スポーツ団体については補助金に頼るのではなく、自立を考えるべきである。
- メタボリック関連の事業は、19年度の重要補助事業になると思うが、内容を見るとパンフレットを作成して配付するだけといった事業が目立つ。知恵を絞った事業が求められる。
- 厚生労働省の関係団体が多いので、同種の事業をまとめて審査することも検討したい。
- チェックリストについては、事業者側に公益性や効果の重要性を認識させるという意味でも公表したほうが良いのではないか。
- 公表するかどうか検討したい。

以上